

証券投資論		講義	教授 丸山 高行	
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの専門 選択科目 会計ファイナンスコースの 専門選択科目 経営・経済コースの専門選 択科目	科目ナンバリング	23222213	

1. 授業のねらい・概要

この科目は、株式、債券を中心とした証券投資について、理論と実践、両面から深く考察する。具体的には、株式と債券を出発点とし、代表的な金融商品の仕組みと取引される市場、さらには価格形成理論の基礎についての理解を進める。また、現在の証券市場では、デリバティブと呼ばれる様々な派生資産（金融派生商品）が大きな影響力をもつ。こうした派生資産に関する基本的な知識や、証券市場を活用するプレーヤーの役割および投資行動についても、分析を加える。

2. 授業の進め方

毎回の授業は、レジュメや配布資料等に基づき講義形式で行うが、一方通行の授業ではなく随所でケース・スタディを提示し、相互ディスカッションを含め、共に考える時間をとるようにする。また、毎回、その日の授業で学習した内容に関する課題として3問程度練習問題を提示し、授業内容の理解を進める。教室での受講に加えて、この課題の期限内提出をもって授業への出席とカウントする。

3. 授業計画

1. イントロダクション	9. オプションの理論価格
2. 株式市場と株式投資	10. 効率的市場仮説
3. 債券市場と債券投資	11. 現代ポートフォリオ理論
4. イールドカーブと債券の理論価格	12. パッシブ運用とアクティブ運用
5. 配当割引モデル	13. ポートフォリオ・マネジメント
6. CAPMとベータ	14. ファンド運用と機関投資家
7. マルチファクターモデル	15. N I S A と i D e C o
8. 先物とオプション	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

レジュメは、1回の授業につき、パワーポイントのスライド12枚が提供される（証券投資論全体で180枚）。スライド12枚は、基本的に毎回の授業テーマに沿った図表と、図表に関する解説文から構成される。さらに、レジュメには、図表の出典および関連する資料や参考文献へのリンクが貼り付けられている。受講者は、レジュメの内容を理解し、関連資料や参考文献にもアクセスして必要知識を整理することによって、毎回、1時間程度の復習を行うことが望ましい。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の課題については、基本的に翌週の授業で解説を加える。期末試験は、課題（4問程度）にレポートの提出を加える形で行う。期末試験については、終了後、解説動画を配信するので、解答が不十分だったところは直ちに復習しておくこと。

6. 授業における学修の到達目標

証券投資論の基礎が、論理的かつ体系的に身につくことを目標とする。また、現実の政治の動きや企業活動、さらには金利・為替市場の状況などが、株式・債券市場の動向にどのような影響を及ぼすかといった話題を積極的に取り上げていくので、証券投資を取り巻く諸分野について、より深く研究しようという意欲が高まることを期待する。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取組み姿勢（20%）および定期試験の結果（80%）によって、評価する。

8. テキスト・参考文献

毎回の授業で提示するレジュメが、テキストとなる。また、レジュメの中で、適宜参考文献を紹介する。

9. 受講上の留意事項

社会科学の基礎A・Bを受講した人は、特に経済・金融関係の知識が本科目の理解につながっていくので、しっかり復習しておいてほしい。また、証券投資論は、特にコーポレートファイナンス論、経営組織論、経営戦略論、国際経営論と関係が深いので、できればセットで受講することが望ましい。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、金融機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。